

◆東京海洋大学フィッシングカレッジ 4月の講座は18日(月)午後6時半から8時まで同大学品川キャンパス7号館1階で。入場無料、予約不要、どなたでも参加できます。終了後の懇親会は参加費4000円(要予約)。講師は田中康夫さん。テーマは「河川はみんなの共有物へ“脱ダム”宣言から始まる新しい治水のあり方～」。

まあ。キャスティング練習をしながら魚を釣り立と川を歩きました。タックルは9呂4番です。ボスターと同じジョーンズ博士のスタイルが決まっていました。魚がいそうなところにはすでに先行者が何人もいて入れませんでした。さらに上流に向かう途中、会合の方に連発していくので見ていると「私はもう上がるからここへ入ったらいでよ」と場所を譲ってくれました。なんどこう幸運でしょう。

「お、いま持かっただよ、  
ブルブルと来たよ」。早速、  
当たりがあったようです。  
本日初の当たりがあつたと  
ころで、2人ともワクワク  
いう重量のあるフライを沈  
めて釣つてしたので、私た  
ちはティペットにオモリを  
つけて沈めることにしました。  
スタイルはミャク釣り  
のようにキャストしたらロ  
ックを立て氣味にして、ラ  
インを張り、魚が食いつく  
たら手元にグゲツと来る  
か、目印の代わりにつけて  
おいた小さなマークが動  
くようじました。

偏光グラス越しに田舎を凝視すと、流れの下に魚が何匹か見えました。フライは見えませんでした。ライが明らかに魚がフライを食べて吐き出したかのようにうな行動も見て取れました。「いま食べてしまひよ」と説明しても「え、金然分からなかつた」と苦笑。繰り返すうちに練習の一回目が掛かりました。「やつた、掛かった、掛かった」と子供のようにしゃぐ田中さんを見て、釣りっこなあって思いました。

# 自然の癒やしさ=に感動



フライフィッシングで良型のニジマスを釣り上げ笑顔を見せる田中康夫さん（左は筆者）

多摩川源流小菅川釣りをしてくるといろんなん人に出会い、友達になれることがうれしいですね。今回、釣りに一緒に田中康夫さんもその一人です。田中さんといえば元長野県知事、革命ともいってべき「脱ダメ宣言」をしたことで時の人になりました。

した。

事務所にお邪魔した時に見たボスターが印象に残っていたので、ハイハイシングにお説じました。それには映画「インディ・

「ジョーンズ」のハリソン・フォードに扮した田中さんが、ムチの代わりにフライロッドを振っていて、「アドベンチャーランド信州」と書いてありました。映画会社とのタイアップで信州観光のキャンペーンを知事自ら行っていたのです。しかもフライフィッシングというセンスに感心する一方、田中さん自身の釣り歴を聞くと経験はなんと一度きり、小学4年生のころに長野県犀川沿いの釣り堀でニジマスを釣りまくったことだけが記憶にあるそうです。

そして、初めてというべき今回の釣りはフライフィ

シシングに限る」と思つたのです。場所もできれば自然河川でと、比較的魚影が濃くて釣りやすい多摩川の源流のひとつ、小糸川を選びました。これは奥多摩湖の上流で、その上にはダムはないし、キャットチ&リリース区間が設定されているのだ、指導されすれば初心者でもなんとか一匹ぐらいは釣れるだらうと考えました。

リースしました。